

# 若者に協同の価値をどう伝えるか

## —協同組合連携組織と大学による活動の事例から—

摂南大学農学部 特任教授

当研究所 客員研究員 北川 太一

### 目次

- |                       |                                    |
|-----------------------|------------------------------------|
| 1. はじめに               | 4. 協同組合連携組織と大学との連携<br>活動—寄付講座の取組み— |
| 2. 若者へのアプローチの必要性      | 5. おわりに                            |
| 3. 大阪府における協同組合間連携の取組み |                                    |

## 1. はじめに

ICA95年原則の第5原則（教育・研修、広報）において、「（協同組合は）若者にむけて協同の特質と利点について広報活動します」<sup>1</sup>とあるように、協同組合が若者へのアプローチを積極的に行い、協同の大切さや協同組合での働きがいなどについて若者の理解を進めていくことは、協同組合の持続可能性を高めるためにも重要な取組みである。

そこで本稿では、協同組合が若者へのアプローチを進めるための手段の一つとして、協同組合連携組織と大学による活動を取りあげる。具体的には、大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会（通称：OCoNoMiおおさか）と筆者が所属する摂南大学農学部が取り組む企画連携講座やキャリアセミナーの事例にもとづいて、活動の意義やプロセス、実施の成果や今後に向けての方向性について考える。JAの現場においても、若者へのアプローチはもちろんのこと、組合員や役職員にJAや協同組合の理念をどう伝えていくかは関心事であると思われる。そのために、少しでも示唆が与えることができれば幸いである。

## 2. 若者へのアプローチの必要性

周知のように、協同組合にとって教育は重要な分野である。19世紀半ばにイギリスで生まれ、先駆的な協同組合とされるロッチデール組合において、剰余金の一部を教育に充てることが取り決められていたように、「協同組合は教育に始まり、教育に終わる」といわれるほど、協同組合では教育・学びの活動を大切にしてきた。教育・学びの活動の重要性は、現代においてJAをはじめとする協同組合にとってますます高まっていると考えられる。

その理由の一つ目は、変化が激しく先行きが不透明な時代にあって、国内外の社会や経済の動向にアンテナを張っておく必要性である。インターネットやSNS等多くの情報が溢れている現代においては、適切な情報を選択し判断する力が求められる。

二つ目は、JAが協同組合として大切にしていることを組合員および役職員が確認しながら、事業や活動をより良くしていく必要があるためである。言うまでもなく協同組合は、不特定多数のお客さんを対象にするのではない。出資し、事業を利用し、運営に参画するのが組合員である。したがって、JAが大切にしている思いや願い、事業や運営の考え方

1 「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」（1996年10月JA全中「21世紀の協同組合原則」JA訳）

の理解・共有が重要であり、教育・学びの活動を適切に行っていくことは、JAの考え方に共感する仲間づくり、人づくりにつながる。もちろん、教育・学びの活動の重要性は組合員だけにとどまるのではなく、事業を進め組合員の活動をサポートする職員、経営に責任を持つ役員にとっても同様である。

そして三つ目として、組合員の年齢構成の高齢化という状況のもとで、若い人たちに協同の大切さと、それを実現するためのしくみとしての協同組合の存在価値を伝えていく必要性が高まっていることがあげられる。この点を進めていくための具体的な方策として、まずは大学等で、協同組合論や農業協同組合論の講義を積極的にカリキュラムの中に位置づけていく必要がある。幸い筆者は、勤務校も含めていくつかの大学（非常勤）で協同組合論を担当しているが、半年間15回（あるいは8回）の中で内容をどう構成し、どのように学生たちに協同組合について伝えていくか、正直、試行錯誤の繰り返しである。学生たちには、JAをはじめとする協同組合が一般企業とはひと味もふた味も違うこと、現場で働く人たちが、組合員とのつながりを大切にしながら日々奮闘している姿を知ってほしいと願っている。このことを理解するためには、そもそも協同組合がなぜ生まれたのか、それぞれの時代背景とともに協同組合が歩んできた歴史を知る必要がある。国内外における先人たちの協同思想に触れることも重要であり、こうした経過の中で協同組合原則やJA綱領の理念が生まれたことを、主に座学を通して理解を進めていく必要がある。

さらに四つ目として、近年顕著になった人材不足・人員確保の観点からも、若者に協同の大切さを伝えることは必要であろう。労働人口の減少や雇用のミスマッチ、仕事や働くことに対する考え方の多様化等の理由によ

り、多くの現場において人材不足が深刻化している。計画どおりに採用者を確保できず“1年1割、3年3割”とも言われる若者の高い離職率が指摘され、JAにおいても、こうした事態を指摘する関係者が多い。

ただし、こうした若者の高い離職率が話題になる一方で、助け合い、補い合うことに関心を持ち、自分たちの居場所を求めて、地域と関わり貢献したいと考える若者も増えているように感じる。SNSを駆使して情報を収集・発信し、ネット上でのつながりを作る「Z世代」と括られがちな彼ら／彼女らであるが、やりがいをもって働きたい、地域に貢献する仕事がしたい、人と人とのコミュニケーションを大切にしたい、と考える若者である。

こうした若者たちの意識を深掘りしていくために、近年では、より実践的な授業を行う「寄付講座」が注目されている。もともと寄付講座とは、大学等が企業や団体によって提供された資金や人材を活用し、時にはプロジェクト専任の研究者を雇用しながら、研究・教育を進めていくこととされる。しかし、最近多くみられる寄付講座とは、協同組合に関する特定の科目を設けて、大部分の授業に協同組合から出講する実践家が講義を行うものも含まれている。また、必ずしも特定の科目を設置しなくとも、既存の授業科目の枠組みを活用して行うことも、広義の寄付講座として捉えられる。以下、本稿においても、寄付講座の意味を広義に捉えて、OCoNoMiおおさかと摂南大学の取組みを紹介していきたい。

### 3. 大阪府における協同組合間連携の取組み

#### (1) 設立の経過と参加団体

大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会（Osaka Co-op / Non-profit Multisectoral Council 以下OCoNoMiおお

さか) は、次のような前史・準備段階を経て、2020年7月に設立された。

2018年10月	大阪府生協連と近畿ろうきん（大阪地区本部）との共催で「協同シンポジウム2018 in おおさか」を開催
2019年1月	大阪府生協連主催の新年講演会「協同組合の連携による持続可能な社会の実現に向けて」を、JAや漁連も参加して開催
2019年2月	日本赤十字社、大阪ボランティア協会などにも呼びかけて、協同組合・非営利協同セクター懇談会を開催
2019年9月	日本協同組合学会第39回大会（於：関西大学）の地域シンポジウム（テーマ「地域と協同組合～なにわ大阪の地に根差した協同組合間協同をめざして～」）において、関係団体が実践報告を行う
2020年1月	各団体代表者による懇談会を開催。9団体で連携組織の設立を合意
2020年2月	国際的な交流イベント「ワンワールドフェスティバル」において、関係団体でセミナーを企画・共催し、SDGsの取組みに関するブース展示を行う
2020年7月	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会設立（9団体）愛称を OCoNoMi おおさか（Osaka Co-op/Non-profit Multisectoral Council）とする

参加団体は、表1のとおりであり、協同組合だけではなく、多くの非営利協同組織が参加していることが特徴である。

## (2) 主な活動内容

### 1) 会員団体によるグループ交流・研修活動

毎年7月、総会にあたる委員会を開催し記念講演会などを実施しているが、聴いて感想を述べ合うだけではなく、参加団体の良さや

(表1) OCoNoMiおおさかの参加団体（2026年2月現在）

<p>&lt;設立時&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人大阪労働者福祉協議会</li> <li>・大阪府漁業協同組合連合会</li> <li>・大阪府森林組合<sup>注)</sup></li> <li>・大阪府生活協同組合連合会</li> <li>・大阪府農業協同組合中央会</li> <li>・近畿労働金庫</li> <li>・社会福祉法人大阪ボランティア協会</li> <li>・日本赤十字社大阪府支部</li> <li>・労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団関西事業本部</li> </ul> <p>&lt;設立後に加入&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生協法人大阪高齢者生活協同組合</li> <li>・生活協同組合おおさかバルコープ</li> <li>・こくみん共済 coop 大阪推進本部</li> </ul>
--

注) 森林組合は府内1組合として合併しており、府連合会は存在しない。

魅力・課題などを出し合い、会員間でのグループ交流を重視している。特に2023年からは、日頃、協同組合について学ぶ機会が少ない若手職員を対象として「OCoNoMiおおさか 若手職員合同研修会」を開催し、講演の後にグループワークを行うことで、若手職員が団体の現状やめざすべき組織のあり方を共有する場としている。

### <開催例>

2024年2月27日

講義：

杉本貴志さん（関西大学商学部教授／日本協同組合学会会長）

「協同組合・非営利協同セクターの社会的意義と役割」

グループワーク：

「あなたの所属する団体が目指す世界をひと言でいうと」「あなたが考えるOCoNoMiおおさかに加盟する団体が協力して解決すべき社会課題はこれ！その理由は？」をテーマに交流

## 2) 協同の認知を広げる取組み

毎年2月に開催され西日本最大級の国際協カイベントであるワンワールドフェスティバル、大阪府漁連等主催の「魚庭（なにわ）の海づくり大会」などに参加し、市民を対象に協同組合・非営利組織の認知拡大に努めるとともに、大阪府の呼びかけによる「大和川・石川クリーン作戦」への参加、大雨被害に遭った大阪府高槻市において若手職員による植樹活動を行うなど、地域貢献活動を行っている。

### <開催例>

2025年2月8日・9日

「第32回 ワンワールドフェスティバル」

基調講演：

伊藤治郎さん（JCA常務理事）

「IYC2025～協同組合への期待と取組み～」

クロストーク：

「SDGs・社会課題解決にかかる取組み」

会員団体がパネラーとして登壇

ブース展示：

OCoNoMiおおさか構成団体のSDGs活動を紹介するクイズ、樹木樹齢当て、お米重量当て、VR災害体験、模擬紙幣枚数当てなど

## 3) 地元大学との連携（寄付講座・キャリアセミナー）

従来より、関西大学において近畿ろうきんによる寄付講座が行われていたが、この経験をベースにして、OCoNoMiおおさか主催による寄付講座（企画連携講座）として発展的に開催した。現在では、大阪府内の3大学（関西大学、阪南大学、摂南大学）に広がり、2026年度からは大阪大学でも実施予定である。また、大学生に協同組合での働き方を伝え、就職先として興味・関心を持ってもらうために「キャリアセミナー」を関西大学と摂南大学で実施し、実際に構成団体への就職に結びつ

くなど成果があがりつつある（具体的な内容や進め方等については、次項で詳述する）。

## 4) 活動の特徴

このようにOCoNoMiおおさかは、日本における協同組合間の連携組織としては後発であるが、日本赤十字社やボランティア協会も含めた多くの非営利協同セクターがメンバーとして参画し、多彩な活動を展開している。とくに注目される特徴は、次の諸点である。

第一は、若手職員の交流・学習活動、さらには寄付講座やキャリアセミナーをはじめとする大学との連携を進めている点である。若手職員が協同組合の場でやりがいを持って働くこと、学生をはじめとする若い人たちに協同組合の認知を広げることが重要になっている今日においては、極めて意義のある取組みである。

第二は、連携組織の運営方法である。OCoNoMiおおさかでは、年に一度開催する委員会（総会にあたる）において活動方針や役員等を審議・決定している。しかし、それとは別に各団体がメンバーとなって出席する幹事会を置き、そこを中心に協議・決定していく方法をとる。活動経費も会費制ではなく12団体で分担するというように、協同を大切にしたフラットな運営がなされている。

第三は、関連学会を中心とした研究面での貢献である。例えば、上述のように協議会発足に向けて準備段階であった2019年に、日本協同組合学会第39回大会の地域シンポジウムにおいて関係団体が登壇した。また、2025年度も、「2025大阪国際協同組合研究シンポジウム」および日本協同組合学会大会を後援し、海外からの訪問者を対象としたオプションツアーのセッティングや地域シンポジウムへの登壇など多大な貢献が続いている。

#### 4. 協同組合連携組織と大学との連携活動－寄付講座の取組み－

##### (1) 寄付講座の取組み状況

2025年国際協同組合年（以下、IYC2025）の重要なテーマは、協同組合の認知を広げることであったが、その具体的取組みとして、大学における寄付講座を増やすことがあった。日本協同組合連携機構（以下、JCA）では、各地の大学にアプローチを行い、日本協同組合学会ともタイアップして2024年10月と2025年9月の2度にわたって寄付講座の拡大に向けたシンポジウムを開催するなど、取組みを進めた結果、表2に示したように20を超える大学で寄付講座の開設が実現している。この表から伺えるように、2010年代早くからの取組みがみられる一方で、2022年以降の開

設あるいは開設予定も多くあり、最近における関心の高まりとIYC2025も重要な契機となっていることがわかる。

関係する協同組合の団体は都道府県の連携組織が中心であるが、香川県や宮崎県、沖縄県など、県一JA・生協といった単協が主体的に参画しているところもある。講座の特徴は、座学のみが多くなっているものの、研究発表を組み込むケース（鹿児島大学、琉球大学、埼玉大学、明治大学、法政大学大学院）や現地学習（北海道大学、宮崎大学ほか）を採り入れるところもあり、開催方法の工夫・多様化がみられる。

(表2) 寄付講座の取組み状況（実施予定を含む）

大学	学部・学科	講義数	協同組合登壇団体（一部抜粋）	開始年度	実施方法			
					座学のみ 1)	研究発表	現地学習	その他 2)
北海道大学	全学教育科目	1泊4日	協同組合ネット北海道構成団体	2023			○	キャリア
山形大学	人文社会科学部	90分×15	J A県中央会・県生協連・こくみん共済coop	2012	○			一部担当
福島大学	自由領域科目	90分×15	(福島大学が連携組織に加盟)	2019	○			
茨城大学	人文社会科学部	105分×14	J Aグループ茨城・大学生協・生協・JCA他	2012	○			
岐阜大学	応用生物科学部	90分×15	J A県中央会・県生協連	2017	○			一部担当
三重大学	人文学部	90分×15	J A県中央会・地域と協同の研究センター、JCA他	2016	○			
関西大学	商学部	90分×15	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会構成団体	2023	○			
摂南大学	農学部	90分×15	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会構成団体	2023	○		○	キャリア
阪南大学	流通学部	90分×15	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会構成団体	2025	○			
大阪大学	大学院	調整中	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会構成団体	2026				実施予定
関西学院大学	人間福祉学部	100分×14	コープこうべの講座に県中、県漁連等が出講	2013	○			一部担当
島根大学	法文学部	100分×14	島根県協同組合連絡協議会の構成団体、JCA	2025	○			
香川大学	基礎科目	90分×8	コープかがわ・香川大学生協・J A香川県・JCA	2025	○			
徳島大学	一般教養科目	90分×15	徳島県下協同組合	2026				実施予定
愛媛大学	農学部	90分×15	J A県中央会 他	2013	○			
久留米大学	文/法/経済/商	90分×15	J A県中央会・J Aくろめ・労協 他	2017	○			
宮崎大学	農学部	90分×15	J Aみやざき・コープみやざき・森連・漁協・JCA	2025	○			一部担当
宮崎大学	農学部	90分×15	J Aみやざき・コープみやざき 他	2025			○	一部担当
鹿児島大学	農学部	90分×15	J A県中央会・県生協連・県森連・県漁連	2020		○	○	
琉球大学	国際地域創造学部	4日間	J A県中央会・J Aおきなわ・コープおきなわ・JCA	2023		○		
埼玉大学	教育機構	90分×15	J A県中央会・県生協連・埼玉大学生協・JCA 他	2023		○	○	
千葉大学	普遍教育	90分×8(×2)	J A全中、千葉大学生協、生活クラブ千葉、 他	2012	○			
日本大学	商学部	105分×13	J A東京中央会、都生協連、全森、全漁連、JCA他	2022	○			
明治大学	経営学部	100分×14	JCA・日本生協連・J A東京中央会 他	2025	○	○		
法政大学院	連帯社会インスティテュート	100分×7	JCA・ゲストスピーカー、(※社会人向け講座)	2022		○		
法政大学院	連帯社会インスティテュート	2日間	JCA・ゲストスピーカー、(※社会人向け講座)	2022		○	○	

注1) 学生が一方的に講義を聞く形式と、この形式に加え講師と学生のディスカッションを含む形式で構成  
 2) キャリアセミナー：キャリアセミナーを当該の授業以外で開催。一部担当：全15コマのうち数コマを担当  
 資料：日本協同組合連携機構の資料に基づき、一部加工して作成した。

## (2) 摂南大学農学部における取組み

### 1) 協同組合を中心としたカリキュラムの概要

摂南大学農学部は、2020年4月に学内7つ目の学部（現在は9学部）として開設された。4つの学科で構成されており、筆者が所属し寄付講座を実施する食農ビジネス学科は、1学年約100名の学生が在籍している。12名の教員（研究室）からなり、経済学、経営学等をベースに、農業経営、農畜水産物流通・マーケティング、関連する政策、食品産業、都市農業、協同組合等を学修する。

筆者が担当する協同組合関係の授業・演習は次のとおりである。

#### ① 「協同組合論」（2年後期選択：受講生80～90名）

協同組合の基礎的理解（歴史、原則など）、農協・生協の組織・事業など。

#### ② 「非営利協同論」（3年前期選択：同30～40名）

さまざまな協同組合や非営利組織、協同組合間連携など

#### ③ 食農共生・協同組合研究室でのゼミ活動（3～4年：10名程度）

協同組合に関する文献・資料の輪読、現地訪問、卒業研究など

OCoNoMiおおさかとの寄付講座は、「非営利協同論」において実施の運びとなった。当初（2022年度）は座学が中心で2～3回ゲストスピーカーを招く程度であったが、3年生にもなると、卒業研究に向けての興味関心や就職活動を意識する時期であり、座学中心では満足度が低いと感じられた。そこで、OCoNoMiおおさかに相談をし、既に関西大学で前例があった寄付講座を2023年度より実施することとした。ただし、正規の寄付講座となると連携団体と大学全体との関係になり、承認や事務手続きが煩雑になるおそれがあったため、学内的には寄付講座の名称は使

わずに「企画連携講座」としている。

### 2) 寄付講座の内容

内容は、表3、表4のとおりであるが、開催の趣旨を次のように設定した。

「日本社会は、少子高齢化による人口減少、貧困などの格差社会、食料自給、環境保全、地球温暖化、多発する異常気象や大規模災害等、様々な問題に直面しています。このような今日的な社会問題に対し、相互扶助の精神に基づき、営利を目的とせず、社会的目的を実現するために、人々が協同して活動する協同組合と非営利協同セクターの社会的役割は、ますます重要になっています。

本連携企画講座では、『非営利協同』の中で協同組合と非営利協同セクターの基礎を学ぶことに加えて、実践者による具体的な事業・活動の講義を中心とします。協同組合と非営利協同セクターの事業・活動への理解を深め、福祉・環境・労働などにも関わる幅広い取組みを知ってもらい、学生に実感してもらうことをめざします。」

ここからわかるように、目的の一つは、学生たちに協同組合も含めた非営利組織が、社会の中で重要な役割を果たしていることを伝えることである。それに加えて、農学や農業・食料問題といった限られた領域にとらわれることなく、現代社会が抱える様々な課題を認識し、その解決をめざして奮闘する非営利組織の活動を理解させることである。このことを通じて、学生自らの専門分野を相対化し、狭い視野にとらわれることなく現代社会を見つめる視座を持ってほしいと願っている。

講義のラインナップは、最初の2回はガイダンスも含めて、「非営利協同とは何か」を理解することに努める。具体的には、非営利協同組織に関し、①組織の種類や世界的にみた現状、②株式会社と比較した場合の基本特性

(表3) 企画連携講座の内容(1) ～働く、食と暮らし～

第1回	講義 ガイダンス	北川太一（摂南大学農学部教授）
第2回	講義	北川太一（摂南大学農学部教授）
第3回	【働く①】 もう一つの働き方～大阪における協同労働の協同組合の実践～ 雇用主に雇われて働くのではなく、一人ひとりが出資し、経営に参画し、働くという協同労働。その考え方と子育て、建物管理、高齢者・障がい者支援など多岐に渡る事業内容について学ぶ。	労働者協同組合ワーカーズコープ 北関東事業本部 相良孝雄
第4回	【食と生活①】 大阪における農業の姿と農業協同組合（JA）の役割 大阪府の農業実態の現状について、またJAがどのように組合員（農家）や地域と関わってきたかを学ぶ。	JA大阪中央会 JA北河内
第5回	【食と生活②】 大阪における地域購買生協の事業と取組み 地域購買生協の宅配・店舗事業と運営について学ぶ。また、生産者と消費者をつなぐ仕組み、宅配による高齢者の見守りや災害時の物資供給活動などコミュニティへの関与の実践について考える。	おおさかパルコープ
第6回	【食と生活③】 漁師は海の守人～大阪における漁業協同組合の取組み～ 漁業は無主物である魚介類を獲る産業であり、大自然に大きく影響されるため、「漁師は海の守人」と言われるように、海の環境や水産資源の管理のための様々な取組みをしている。ここでは、漁業協同組合の取組みを歴史的背景も併せて学ぶ。	大阪府漁業協同組合連合会

(表4) 企画連携講座の内容(2) ～福祉、金融・共済、環境・災害～

第7回	【暮らしの安心・安全①】 大阪における地域での福祉の取組み 高齢者生協は、高齢者や障害者が安心して暮らせる地域づくりに取組み、必要な要望を自治体や政府に届け、福祉を高めている。健康を保ち、また障害をもつても人間らしく暮らせるように、心の通い合う医療や介護をしてくれる人々との結びつきを学ぶ。	高齢者生活協同組合
第8回	【暮らしの安心・安全②】 大阪における非営利・協同組織の金融の役割とは 第二次大戦後、労働組合・生協などが、労働者のために設立した協同組織金融がろうきんである。今日まで、ろうきんが果たしてきた役割と現在の取組みについて学ぶ。	近畿労働金庫
第9回	【暮らしの安心・安全③】 大阪における共済事業の意義と役割 共済と保険の違い、あゆみや事業内容と共に、火災共済が日本で初めてスタートした大阪における共済事業の発展を振り返り、非営利団体の存在意義を学ぶ。	こくみん共済 coop 大阪推進本部
第10回	【環境・災害・ボランティア①】 紛争、災害、病気で苦しむ人を救う活動とは～大阪における災害支援、防災・減災を考える～ 日本赤十字社は、国内災害救護をはじめ、国際活動、赤十字ボランティアの育成など国内外で苦しんでいる人を救うため幅広く事業を展開している。こうした人道的活動について学ぶ。	日本赤十字社大阪府支部
第11回	【環境・災害・ボランティア②】 大阪における市民活動・ボランティアの役割とは 大阪ボランティア協会は、全国に先駆けて誕生した市民活動サポートセンターとして、ボランティアやNPO、企業の市民活動を支援している。その活動の意義・役割について学ぶ。	大阪ボランティア協会
第12回	【働く②】 大阪における労働者自主福祉運動の“これまで”と“これから” 人は労働者と消費者の両面を持ち地域社会で暮らしを営んでおり、協同組合と労働組合の相互関係を考えることは重要な意味がある。労働者自主福祉運動の歴史を振り返り、現状と今後の課題を学ぶ。	大阪労働者福祉協議会
第13回 注)	【環境・災害・ボランティア③】 大阪の森林を守り育てる取組み 森林組合の役割は、木材供給のほか、国土保全、水資源保全、森林生産力の増進などである。森林を守り育てることが、私たちの暮らしにつながる大切な営みであることを学ぶ。	大阪府森林組合 (現地訪問)

注) 第13回（現地訪問）は2コマ分（第13回～第14回）、とし、第15回目は「講義のまとめ」としている。

や法制度、など基礎的な事項を理解することである。

第3回目以降は、各組織からのゲスト講義であるが、表3に示したように前半（第3回～第6回）では、3年生が対象であり就職活動がスタートすることから、改めて「働く」をテーマに講義とディスカッションを行う。その後、「食と暮らし」をサブテーマとして、JA、生協、漁協と続く。さらに表4に示したように後半（第7回～第12回）では、福祉、金融・共済、環境・災害をサブテーマとして、日本赤十字社やボランティア協会なども含めた幅広い非営利組織からのゲスト講義が行われる。こうした多様な内容を実施できるのは、

上述したようにOCoNoMiおおさかが協同組合のみに限定せず、多彩な非営利組織の団体をメンバーとしていることによる。

そして第13回は、大阪府森林組合を訪問する、そこでは、森林組合の概要説明を受けるとともに、実際の現場に出かけて森林整備の様子やドローンの操作を通じた活動を体感する。

### 3) キャリアセミナー

寄付講座の一環として2023年度から、協同組合における働き方を知る目的でキャリアセミナーを実施した。これは、筆者が担当する「協同組合論」（2年生対象）の講義の中で行っているが、その概要は表5のとおりである。

(表5) 摂南大学におけるキャリアセミナーの概要 (2025年度)

<p>■ 開催名：キャリアセミナー「非営利組織・協同組合で働く」</p> <p>■ 日時：①2025年11月25日15：00～18：10（4限、5限） ②2025年12月9日15：00～18：10（4限、5限）</p> <p>■ 参加団体</p> <p>①大阪いずみ市民生協、大阪よどがわ市民生協、大阪府森林組合、労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団関西事業本部（4団体）</p> <p>②おおさかパルコープ、近畿ろうきん、こくみん共済coop（3団体）</p> <p>● 実施方法（11月25日の例）</p> <p>《第1部》全体会：非営利組織・協同組合の紹介（4時限15：00～16：30）</p> <p>1. 北川先生挨拶・趣旨説明（10分）</p> <p>2. お仕事体験交流の説明（10分）</p> <p>3. 大阪いずみ市民生協で働くとは？（15分）</p> <p>4. 大阪よどがわ市民生協で働くとは？（15分）</p> <p>5. 大阪府森林組合で働くとは？（15分）</p> <p>6. 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団で働くとは？（15分）</p> <p>*各団体の説明内容（イメージ）</p> <p>①団体の紹介</p> <p>②具体的な働き方と働く意義（業務内容と働く楽しさ、学生への期待など）</p> <p>③2027年度採用について</p> <p>《第2部》団体別にコーナーを設けての紹介・質問・相談（5時限16：40～18：10）</p> <p>1. 4団体が4つの教室に分かれて、15分（13分質疑応答・2分で移動）ごとに入れ替わります。4団体は、各教室固定で、参加者を受け入れます。</p> <p>2. 参加者を4グループにわけ、各教室（8210、8206、8207、8208）をグループ毎に回ります。</p>
--

この講義では、第1回目～第10回目くらいまでを座学として、協同組合の基礎的な理解（種類、歴史、原則など）、および農業や食品問題と関連するJAと生協の組織と事業について講述する。こうした内容を踏まえてキャリアセミナーが実施されるが、当日は2コマ連続で2回に分けて行う。前半のコマでは各団体（3～4団体程度）の概要説明を行い、後半のコマでは小教室に各団体のコーナーを設けて、学生たちはローテーションで回っていく。そこでは学生から、団体の内容や働き方に関する質問を出してもらいながら意見交換を行う。2年生対象であるために就職活動への意識はまだ低いと考えられるが、各団体の概要を知ると同時に働き方への意識を少しでも高めて、就職先の選択肢の一つとして協同組合を意識してもらうために、あえて2年生の授業で実施している。

### (3) 学生の反応、効果、今後の課題

以上の取組みに対する学生の反応はさまざまであるが、概ね当初の目的である協同組合の存在を知る・意識する、現場での実践を知る、地域と結びついて働くことを実感する、現代が抱える社会問題を学部・学科の専門を超えて気づく、といった点では、ある程度の効果があったのではないかと考えられる。とくに、数こそ少ないものの、講義を受けて自ら団体等にアプローチする学生もみられた。また、就職先候補の一つとして協同組合を想定する学生は少なからず存在し、この取組みによる直接的な影響かどうかは必ずしも定かではないが、実際にJA（全国連や県本部を含む）、生協、漁協（連合会）に就職する学生もあった。なお新しい企画として、これもOCoNoMiおおさかの協力を得て「協同組合インターンシップ（お仕事体験）」の開催を決定し、2026年3月に実施する予定である。

その一方で、いくつかの課題も存在すると感じられた。一つは、受講人数の問題である。受講人数が多い方が、より多くの学生に対して協同組合のことを知ってもらうきっかけになり、アナウンス効果も大きい。しかしその一方で、学生との対話を重視した取組みを行いにくくなり、ましてや現地訪問などのプログラムの実施は難しくなる。大講義、中講義、少人数ゼミなど、メリットとデメリットを踏まえた効果的な実施方法の選択と工夫が求められる。

二つには、他学部への広がり、場合によっては他大学との交流・連携を進める必要性である。さまざまな専門領域を持つ学生が協同組合をテーマに学び、交流することは、学生たちにとって日頃味わえない気づきや考え方が得られる可能性がある。

## 5. おわりに

一昨年（2024年）10月に開催された第30回JA全国大会では、JAの仲間づくりに取り組むことが決議された。新規就農者の育成・定着を促すなど「農業振興の主人公」である次世代の正組合員を確保すると同時に、農産物直売所や市民農園の利用者、農業ボランティアを行う人たちなどを「農業振興の応援団」として組合員加入を進めることとされている。さらにこれらに加えて「潜在的応援団・主人公」として位置づけられる若者へのアプローチが必要であろう。冒頭述べたように、IYC 2025の目的の一つは、若者の協同組合に対する理解を促進し、その認知度を高めることであった。ポストIYCを迎えても、引き続きJAと教育機関とがスクラムを組み、若い人たちに協同の大切さを伝える取組みの広がりが期待される。